

第87期
中間報告書

平成28年4月1日～平成28年9月30日

Micro&Fine Technology

【 経営理念 】

私たちは、お客様にとって価値のある商品とサービスの提供を通じて社会の発展に貢献します。

私たちは、情報を重視し、世界の変化にすばやく適応するため、技術・知識・行動の革新に挑戦し続けます。

私たちは、利益ある発展と、創造性豊かでいきいきとした企業風土の確立を目指します。

当社の経営方針について

当社はステンレス鋼線並びに金属繊維（ナスロン）を主力製品とし、長年に亘り培ってきた技術力と新しい技術分野への挑戦により、お客様にとって価値ある商品とサービスの提供を通じて社会の発展に貢献することを経営の基本理念といたしております。

また、株主の皆様並びにお取引先など、内外の関係先からの信頼と期待に応えるため、常に世の中の変化に迅速に対応できる柔軟な経営体制の構築を通じて、安定した収益基盤の維持・拡大を図るべく事業活動を展開してまいります。

株主の皆様へ

日本精線は、ステンレス鋼線のトップメーカーとして、次世代素材、技術開発をリードしつづけています。

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに、当社第87期中間期(第2四半期累計期間、平成28年4月1日から平成28年9月30日まで)の事業の概況につきましてご報告申し上げます。

平成28年12月



代表取締役社長

新貝 元

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や所得・雇用環境の改善に支えられ、緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、中国をはじめとした新興国経済の減速に加え、地政学的リスクの増大や円高の進行など、景気の先行きは不透明感を増しております。

当社及び連結子会社（以下「当社グループ」という。）が属するステンレス鋼線業界では、建材関連需要の回復に伴い、業界出荷数量は、前年同期比増加となりました。また、約2年間下落基調が続いたLMEニッケル価格によようやく底入れ感が見られております。

このような状況の中、当社グループでは、連結経常利益40億円以上、連結経常利益率(ROS)10%以上などを経営目標とする『第13次中期計画(SR17)』（最終年度平成30年3月期）の達成に向け、収益の一段の向上に鋭意取り組んでまいりました。

当中間期の売上高につきましては、主力のステンレス鋼線部門は、販売数量は前年同期に比べ増加しましたが、ニッケル価格変動に起因する販売価格下落の影響などにより減収となりました。一方、金属繊維部門は、主力のナスロンフィルターは低調に推移しましたが、超精密ガスフィル

ター(ナスクリーン)が堅調に推移したため、増収となりました。これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は152億74百万円(前年同期比7.2%減)となりました。

損益につきましては、売上高減少に伴う粗利の減やニッケル価格下落に伴う評価損の計上などにより、営業利益は10億69百万円(前年同期比23.9%減)、経常利益は10億63百万円(同28.0%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は7億63百万円(同22.8%減)と前年同期比減益となりました。

なお、中間配当につきましては、既に公表しておりますとおり1株につき6.5円とさせていただきます。

次に部門別の概要についてご報告申し上げます。

ステンレス鋼線部門

建材関連需要の回復に伴い鋸螺用が増加するなど、ステンレス鋼線全体の販売数量は前年同期に比べ増加しましたが、ニッケル価格変動に起因する販売価格下落の影響などにより、ステンレス鋼線の売上高は前年同期に比べ減収となりました。

また、海外現地法人である THAI SEISEN CO.,LTD. につきましても、ステンレス鋼線の販売数量は増加しましたが、ニッケル価格変動に起因する販売価格の下落や円高の影響などにより売上高は前年同期比で減収となりました。

これらの結果、ステンレス鋼線部門の売上高は127億23百万円(前年同期比9.3%減)となりました。

金属繊維(ナスロン)部門

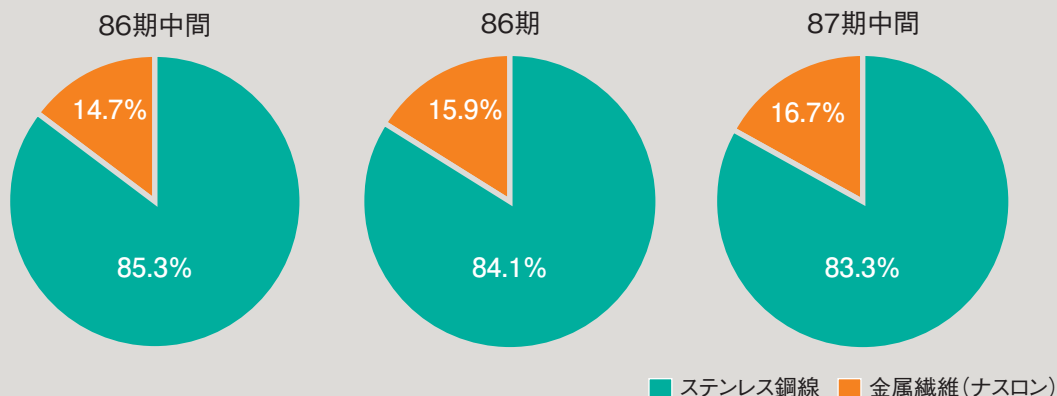
主力のナスロンフィルターは、設備投資案件が

低調に推移したため、ポリエステルフィルム向けに加え、化合繊維向けや液晶用など高機能樹脂用途についても減収となりました。一方、超精密ガスフィルター(ナスクリーン)は韓国や台湾での半導体メーカーを中心とした設備投資が堅調に推移したため、増収となりました。

また、海外現地法人である耐素龍精密濾機(常熟)有限公司につきましても、中国国内向けの販売が堅調に推移したことなどにより、売上高は増加しました。

これらの結果、金属繊維部門の売上高は25億50百万円(前年同期比5.2%増)となりました。

部門別売上構成比(連結)



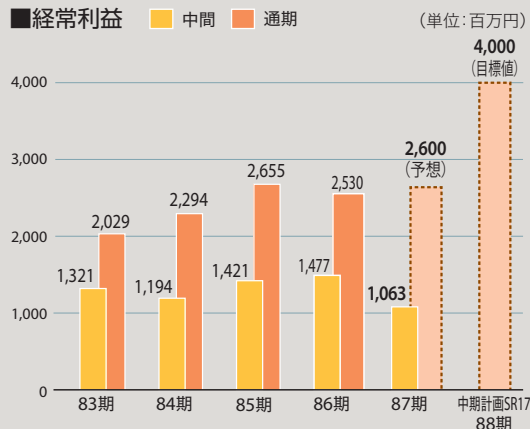
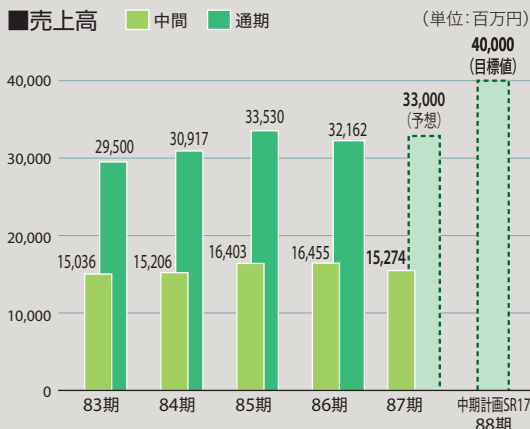
今後の見通しといたしましては、中国をはじめとした新興国経済の減速に加え、地政学的リスクの増大や円高の進行等懸念すべき課題は山積しております。また、業界特有の問題として、当社グループの主力製品のステンレス鋼線は、中国や韓国のステンレス鋼線メーカーとの競争激化による収益低下などの懸念があり、加えてニッケル価格に起因する原材料価格の変動リスクなど厳しい環境下に置かれております。また、金属繊維(ナスロン)も化合繊維向けなどの一般汎用製品については競争が激しくなっております。

こうした中で当社グループはかかる経営環境に

対応するべく、より筋肉質な企業基盤を目指し、既述の『第13次中期計画(SR17)』の課題に鋭意取り組んでおります。

具体的には、ステンレス鋼線部門において、販売面では国内外市場に対し、ばね用材や極細線をはじめとする高機能製品、自動車向け耐熱ボルト用材や高合金線などの独自製品の拡販に加え、新用途製品の立ち上げを推進してまいります。一方、生産面では需要家のグローバル展開に対応して海外2工場の拡張や、枚方工場リニューアルの推進等により、引き続き国内外の最適生産体制の構築を進めてまいります。開発面では当社

業績の推移(連結)



第83期の経常利益については、固定資産除却損の表示方法の変更を実施したため、遡及処理後の数値を記載しております。

グループの保有する技術力・ノウハウに大同特殊鋼グループの技術力を結集することによる新製品開発の強化や新規事業の確立などに引き続き取り組んでまいります。

金属繊維部門では、中国・韓国の現地法人の活用等による海外市場への拡販、また、国内でもより高機能化・高精度化する需要に応えるべく技術開発を継続してまいります。

さらには、環境・医療・エネルギー関連など幅広い分野での新製品開発などにも鋭意取り組んでまいります。

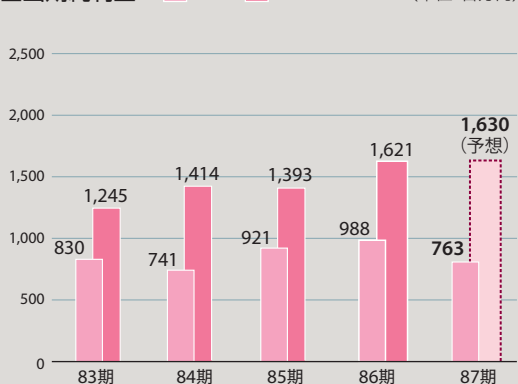
以上の諸施策を確実に実行することにより、収

益の一段の向上を図るとともに、事業のグローバル化推進や高度化・多様化する顧客ニーズへの対応などにより、『さらなる企業価値の向上』を目指してまいります。

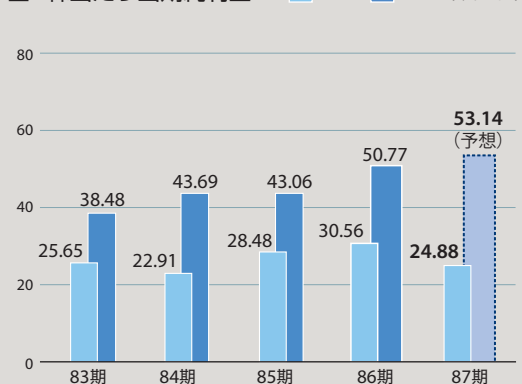
なお、平成29年3月期の連結通期業績につきましては、平成28年4月27日に公表いたしました業績予想に変更はございません。

株主の皆様におかれましては、何卒、一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

■当期純利益 (単位:百万円)



■1株当たり当期純利益 (単位:円)



連結決算

四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	期別	当第2四半期末 (平成28年9月30日現在)	前第2四半期末 (平成27年9月30日現在)	前期末 (平成28年3月31日現在)
資産の部				
流動資産		22,217	23,095	22,057
現金及び預金		10,194	9,791	9,629
受取手形及び売掛金		6,505	6,921	6,723
商品及び製品		1,534	2,120	1,730
仕掛品		2,259	2,483	2,189
原材料及び貯蔵品		1,273	1,315	1,342
繰延税金資産		239	255	237
その他		210	205	204
固定資産		12,382	12,508	12,474
有形固定資産		9,930	9,915	10,038
建物及び構築物(純額)		3,544	3,058	2,949
機械装置及び運搬具(純額)		4,320	4,565	4,524
土地		1,573	1,600	1,581
リース資産(純額)		3	3	1
建設仮勘定		208	468	770
その他(純額)		280	219	211
無形固定資産		384	304	353
投資その他の資産		2,067	2,288	2,082
資産合計		34,599	35,603	34,532

*財務諸表は以下に基づき作成しております。

①当第2四半期累計期間(末)及び前第2四半期累計期間(末)は四半期連結財務諸表規則に基づき、それぞれ作成しております。

②記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

科目	期別	当第2四半期末 (平成28年9月30日現在)	前第2四半期末 (平成27年9月30日現在)	前期末 (平成28年3月31日現在)
負債の部				
流動負債		5,550	6,261	5,913
支払手形及び買掛金		3,345	3,817	3,335
短期借入金		494	690	684
未払法人税等		437	434	324
賞与引当金		574	574	561
役員賞与引当金		—	—	30
その他		699	745	977
固定負債		4,129	3,824	4,098
長期借入金		—	185	—
役員退職慰労引当金		92	120	132
環境対策引当金		39	—	39
退職給付に係る負債		3,994	3,519	3,925
その他		2	0	—
負債合計		9,680	10,086	10,012
純資産の部				
株主資本		25,369	25,158	24,790
資本金		5,000	5,000	5,000
資本剰余金		5,442	5,446	5,442
利益剰余金		15,770	14,752	15,191
自己株式		△ 843	△ 39	△ 842
その他の包括利益累計額		△ 635	98	△ 474
その他有価証券評価差額金		△ 8	86	△ 7
繰延ヘッジ損益		—	△ 0	0
為替換算調整勘定		△ 280	86	△ 78
退職給付に係る調整累計額		△ 345	△ 74	△ 388
非支配株主持分		184	259	204
純資産合計		24,919	25,516	24,520
負債純資産合計		34,599	35,603	34,532

四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	期 別	当第2四半期(累計)	前第2四半期(累計)	前期
		(平成28年4月1日から 平成28年9月30日まで)	(平成27年4月1日から 平成27年9月30日まで)	(平成27年4月1日から 平成28年3月31日まで)
売上高		15,274	16,455	32,162
売上原価		12,746	13,612	26,822
売上総利益		2,527	2,842	5,340
販売費及び一般管理費		1,458	1,437	2,869
営業利益		1,069	1,405	2,470
営業外収益		23	95	164
営業外費用		29	23	105
経常利益		1,063	1,477	2,530
特別利益		43	0	21
特別損失		0	-	51
税金等調整前四半期(当期)純利益		1,106	1,477	2,499
法人税、住民税及び事業税		375	390	720
法人税等調整額		△ 33	104	161
四半期(当期)純利益		764	983	1,617
非支配株主に帰属する四半期純利益 又は 非支配株主に帰属する四半期(当期)純損失		0	△ 5	△ 4
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益		763	988	1,621

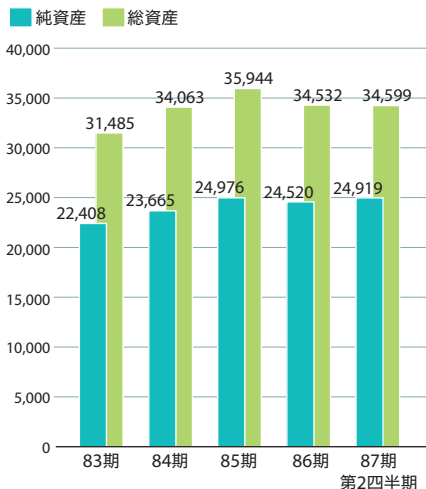
四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	期 別	当第2四半期(累計)	前第2四半期(累計)	前期
		(平成28年4月1日から 平成28年9月30日まで)	(平成27年4月1日から 平成27年9月30日まで)	(平成27年4月1日から 平成28年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー		1,656	1,043	3,063
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 641	△ 641	△ 1,502
財務活動によるキャッシュ・フロー		△ 400	△ 339	△ 1,512
現金及び現金同等物に係る換算差額		△ 86	△ 17	△ 160
現金及び現金同等物の増減額		528	44	△ 112
現金及び現金同等物の期首残高		9,592	9,704	9,704
現金及び現金同等物の四半期末又は期末残高		10,120	9,749	9,592

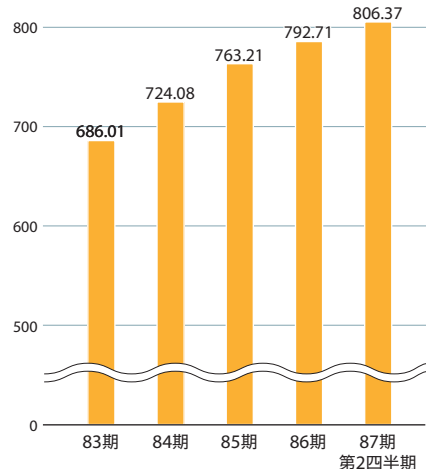
■ 総資産・純資産(連結)

(単位:百万円)



■ 1株当たり純資産(連結)

(単位:円)



会社の概況 (平成28年9月30日現在)

会社概要

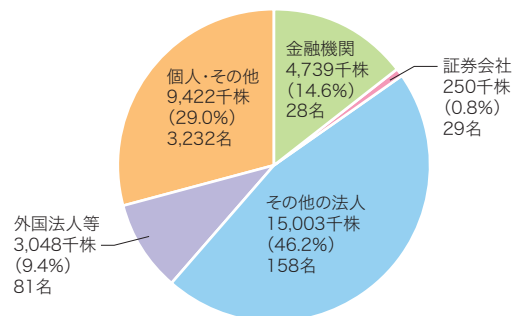
商号 日本精線株式会社
(英文名 NIPPON SEISEN CO., LTD.)
設立 昭和26年6月30日
資本金 50億円
従業員数 539名
ホームページ <http://www.n-seisen.co.jp/>
アドレス

当社グループの主な営業品目

ステンレス鋼線、ステンレス鋼直棒・異形線、高合金線、チタン線、金属繊維(ナスロン)及びその加工品、金属繊維焼結フィルター、半導体用超精密ガスフィルター、ダイヤモンドダイス、溶接棒、その他金属線

株式の状況

- 発行可能株式総数 82,800,000株
- 発行済株式の総数 32,461,468株
- 当第2四半期末株主数 3,528名
- 所有者別株式分布状況



当社グループの主要な事業所

■当社

本社 大阪市中央区高麗橋四丁目1番1号(興銀ビル)
支店・営業所 大阪(大阪市中央区)・東京(東京都中央区)
名古屋(名古屋市中区)・九州(福岡市中央区)
工場 枚方(大阪府枚方市)・東大阪(大阪府東大阪市)

■主な子会社

会社名	出資比率	所在地
THAI SEISEN CO., LTD. (*)	95%	タイ国サムットプラカーン
耐素龍精密濾機(常熟)有限公司(*)	80%	中国江蘇省常熟
大同不銹鋼(大連)有限公司	74%	中国遼寧省大連

(*)は連結対象子会社

■大株主

株主名	持株数	持株比率
大同特殊鋼株式会社	13,103 ^{千株}	42.72%
株式会社みずほ銀行	1,086	3.54
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	726	2.37
BBH BOSTON FOR NOMURA JAPAN SMALLER CAPITALIZATION FUND 620065	578	1.88
特殊発條興業株式会社	532	1.74
前尾和男	492	1.60
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	425	1.39
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	408	1.33
株式会社池田泉州銀行	401	1.31
株式会社三菱東京UFJ銀行	338	1.10

(注)持株比率は自己株式(1,787千株)を控除して計算しております。

役員

取締役及び監査役

(*印の取締役は執行役員を兼務しております)

代表取締役社長	新 貝	元
*取締役	川 端 泰	司
*取締役	秋 田 康	明
取締役相談役	近 藤 龍	夫
取締役	花 井	健
取締役	関	公 彦
取締役	滝 沢 正	明
常勤監査役	浮 田 昌	秀
常勤監査役	中 川 幸	朋
監査役	野 中 章	男
監査役	花 輪	博

執行役員

常務執行役員	川 端 泰	司
常務執行役員	西 田 成	夫
常務執行役員	富 永 誠	司
執行役員	安 部 明	夫
執行役員	大 間 英	之
執行役員	秋 田 康	明
執行役員	吉 田	厚
執行役員	津 田 俊	之
執行役員	加 藤 泰	資
執行役員	高 橋 一	朗
執行役員	岩 城 泰	王
執行役員	小 林	真

株主メモ

決算期日	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 3月31日 その他必要のあるときは、取締役会で決議し、 あらかじめ公告する一定の日
剰余金配当の基準日	期末 毎年3月31日 中間 毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
公告掲載方法	日本経済新聞に掲載
証券コード	5659
郵便物送付先 電話お問い合わせ先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 ●電話 0120-288-324 (フリーダイヤル) ●インターネット https://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/index.html

NIPPON SEISEN CO., LTD.

